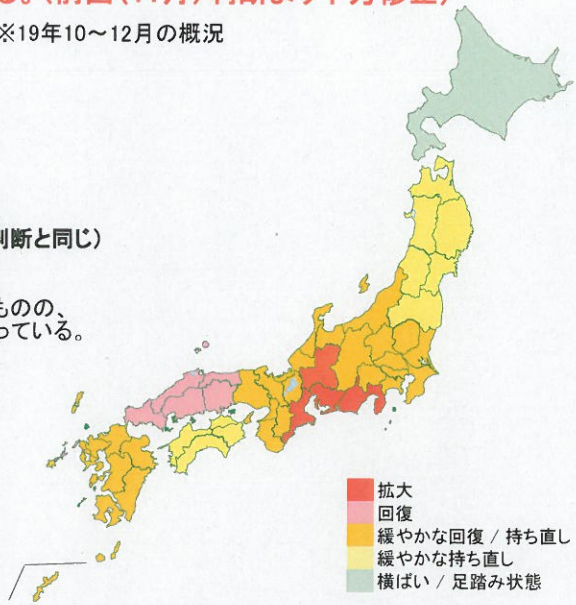
○財務省「管内経済情勢報告」　（1月21日公表）

近畿地域の景気は、緩やかに回復している。（前回（11月）判断より下方修正）

＜項目別＞
生産活動：堅調に推移している
個人消費：総じてみると緩やかな持ち直しが続いている
雇用情勢：改善に足踏み
輸出：好調に推移している
企業収益：下期は減益見込みとなっている

※19年10～12月の概況



（全局総括）一部に弱い動きがみられるものの、緩やかな回復が続いている（前回判断と同じ）

【各地域の総括判断】
北海道：一部に揺るやかな持ち直しの動きが続いているものの、一方で弱い動きもあり、全体としては横ばいとなっている。
東北：持ち直しの動きがさらに緩やかになっている。
関東：一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに回復している。
北陸：一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに回復を続けている。
東海：総じて拡大基調にある。
近畿：緩やかに回復している。
中国：おおむね回復している。
四国：このところやや足取りが鈍くなっているものの、総じて見ると緩やかに持ち直している。
九州：緩やかな回復の動きに足踏みがみられる。
福岡：緩やかに回復している。
沖縄：緩やかに回復している。

※各機関による近畿の景況判断【月次】

・日本銀行大阪支店：「近畿地域金融経済概況」
（平成20年2月18日公表）
近畿地域の景気は、緩やかに拡大している。
すなわち、輸出は、海外経済の拡大を背景に、増加している。設備投資は、企業収益が高水準を続ける中、増加している。雇用情勢は改善を続けており、個人消費は底堅く推移している。他方、公共投資は減少基調にある。こうした需要動向を反映して、生産は増加している。

・近畿経済産業局：「近畿経済の動向」
（平成20年2月20日公表）
近畿経済の動向は、生産は横ばい、個人消費は概ね横ばいであるなか、設備投資が増加、輸出も伸びが鈍化しているものの好調に推移、雇用も改善するなど、**緩やかに改善している。**

※全国の景況判断【月次】

・内閣府：「月例経済報告」（平成20年2月22日公表）
景気は、このところ回復が緩やかになっている。
（前回判断：景気は、一部に弱さがみられるものの、回復している。）
先行きについては、設備投資や輸出が増加基調で推移し、緩やかな景気回復が続くと期待される。ただし、サブプライム住宅ローン問題を背景とするアメリカ経済の減速や金融資本市場の変動、原油価格の動向等から、景気の下振れリスクが高まっていることに留意する必要がある。
＊企業収益は改善に足踏みがみられる。
設備投資は、緩やかに増加している。
＊雇用情勢は、厳しさが残るなかで、改善に足踏みがみられる。
＊個人消費は、おおむね横ばいとなっている。
＊住宅建設は、持ち直しの動きがみられるものの、依然として低い水準にある。
＊輸出は、緩やかに増加している。
生産は、増勢が鈍化している。